

現在のサウジアラビアにおける社会問題

前リヤド日本人学校 教諭

兵庫県姫路市立高丘中学校 教諭 中山 健太郎

キーワード：現地理解, 新興国, 社会問題

1. はじめに

アラビア半島の中心に位置するサウジアラビアの歴史は浅く建国から70年あまりしかたっておらず、長年による他国の支配から独立することとなった。政治は国王、イスラム教を中心とする祭政一致の専制君主国で、イスラムのコーランを中心とした憲法のもと国王の最終決定で政治が行われている。他国に比べ禁止事項が多く、飲酒、豚肉を食べる、集会などが法律で禁止されている。特に女性に対して制限が多く、女性は働けず車の運転もできないのである。よく知られているのが女性はアバヤという黒いマントのような物で全身を覆い、公然で素肌をさらけ出してはいけないのである。

経済の中心は石油で世界の26%の確認埋蔵量を有しており、日本の石油輸入の約30%はサウジアラビアからである。サウジアラビアからは原油を供給してもらい、日本からは原油からの生産技術を提供しており、両国の関係はお互いにとって重要なのである。

イスラム教の聖地マッカとメディナを抱えるまさしくイスラムの中心であり、国民の100%がイスラム教徒である。生活習慣もイスラム教が中心で、1日5回の礼拝(サラ)時は全ての店舗、会社などはお店や事務所を閉めなければならない。上記の禁止事項やこの礼拝時の慣習は外国人にも適用され、サラ時には買い物もできないのである。

国土の95パーセントは土漠と呼ばれる鉄分を多く含む土、砂で覆われているが、東西には紅海、アラビア湾に挟まれ、また北部にはアッシール山脈と呼ばれる2,000メートル級の山々に囲まれている。内陸の気候は砂漠気候で絶えず乾燥している。真夏の気温は50度を超えるが湿度が低い分体感気温は意外と低いのである。また、短期間ではあるが冬は乾燥のためかなり寒く感じる。年間を通して雨が殆ど降らず、季節の変わり目の数日間しか雨期がないが年々雨量が増加しており災害をもたらす場合もある。

同盟国アメリカや隣国UAEなどから近代化の波が押し寄せており現在多くの社会問題を抱えているのである。以下にその具体的内容を記していきたい。

2. サウジアラビアにおける社会問題

イスラム教を生活の中心とし、頑なに上記のような特殊な生活環境を生み出してきたサウジアラビアであるが、近代化の波が押し寄せ西洋文化習慣が混入してきたのである。その結果、多くの社会問題が発生しており人々の生活も変化している

① 肥満化, 生活習慣病対策

一歩街へ出れば各国で有名なファーストフード店。ハンバーガーなどをおやつ代わりに食べ、飲み物は必ず炭酸飲料。コーヒーや紅茶が大好きなサウジ人は、その中に砂糖を3杯以上を入れて飲むのである。甘い物が大好きでケーキ屋やチョコレート屋が数多く並んでおり、アルコールのないこの国では、甘い物がその代用とされている。ラマダン(断食)中は日が暮れてから高カロリーの食べ物をたくさん食べる。砂漠気候のため日中は殆ど動くこと

がなく、出歩くのは日が暮れてからのため運動不足である。このような生活習慣のため子どもから老人まで全体的に肥満体型の人が多く、手や足を骨折している人をよく見かける。

また、病院へ行けば糖尿病予防のポスターがよく貼ってあり、知り合いのサウジ人の多くがインシュリン注射を持ち歩き通院している。

政府もこの問題の対応に乗りだしTVなどで啓発活動を行っており、サウジ人たちも意識し夕暮れから夜にかけてたくさんの人が公園をウォーキングしている。また、多くのスポーツジムが点在し、生活習慣病予防に乗り出している。

② 自国生産、雇用問題解決に向けて

石油埋蔵料世界1位を誇る国であるが、将来石油が枯渇した時のことを考えていかなければならない。食料品から生活必需品にいたるまでその殆どを輸入や外資系企業の国内生産に頼っているため、サウジ産の物が殆どない。また、外国人労働者とその労働力を担っており自分たちの手で何かを作るという習慣がないため、今後若年層を中心に技術力、生産力を高める方向に向かっている。原油はとれるがそれを加工して製品化する技術がないため日本からも三菱を中心に生産技術を供給している。また、日本とは逆に近年人口が増加しており、ピラミッド型の人口であるため今後若年層の雇用が困難になると予想される。

③ 教育改革

現地の学校は小学校から男女に分かれ、主にコーランを中心とした教育が行われており、理数系、芸術系の教科指導はない。そのため裕福な特権階級の家庭は、アメリカンスクールなどの私立へ通わせ高度な教育を受けさせている。現在、一番の問題になっているのが英語教育で、人口の4割が外国人労働者であるこの国でのコミュニケーション手段は英語が使われている。多くの大学や研修所でも英語教育に力を入れ、人気が高い公務員などの採用では、必ず英語を使えることが必須条件になっている。また、新設の大学が多く見られ特に理数系に力を入れようとしている。

法律上、女性の就労が禁止されており雇用の機会に恵まれないが、政府の新しい方針でキングカレド国際空港の近くの広大な土地を使いサウジアラビア最大の女子大学が建設中で、女性の海外での活動が期待されている。

今年度より公立学校では日本でいう小3の学齢期まで男女共学のシステムが導入された。サウジアラビアでは画期的な事であるが、コーラン中心の教育から世界に通用する教育システムを取り入れていく必要があり、特に英語、数学といった教科は必須科目にしていかなければならないであろう。

④ 水害対策

2008年に巡礼最中のジェッダで起きた洪水では多くの死者が出た。近年の地球温暖化の影響でサウジアラビアでも異常気象が起こっており、夏は50度を超す気温の日が続き、年間数日しか雨が降らない雨期に集中豪雨が続く、街中で多くの被害が出ている。元々排水設備が整っていない国で一度雨が断続的に降れば洪水が発生し、交通機能は麻痺してしまう。公共交通機関が殆どなく生活の足は車しかないため一度豪雨に襲われると数日間、外には出られないのである。一刻も早い整備が望まれる。

⑤ 外国人労働者

一度空港に下り立つとサウジ人よりも出入国をする近隣の外国人が目につく。中でも入国審査は長蛇の列でパキスタン、インド、イエメン、アフリカ諸国の出稼ぎ労働者である。女性の入国者も多く、フィリピン、インドネシアなどからの就労者でメイドや医療・福祉関係で働くのである。

サウジアラビアの法律で、各家庭で最低一人はメイドを雇わなくてはならず、裕福な家庭では、他にドライバーや調理師も雇っており、生活の大半を外国人労働者に頼っている。レストランや店舗の従業員、街の清掃車、工場で働く労働者は外国人労働者で低賃金で働かされているのが目立つ。労働者に話を聞くと、他の国に比べ賃金も高く物価が安い生活しやすく、多くの外国人がサウジでの就労を希望しているということである。

今後、石油が枯渇した時に経済的不安要素が発生し、多くの外国人労働者が解雇されサウジアラビアだけでなく、近隣国にまで波及する恐れがある。

⑥ 交通事故率死亡率の上昇

片側3車線以上の直線道路が多く、一般道でも80キロ以上で走行しているのが普通である。運転マナーも悪く信号無視、急な割り込みや若者の危険運転で一日に交通事故現場を見ない日はない。学校が休みになると小学生や中学生も無免許で運転している姿も見られ、国全体で交通事故を警戒する意識が低い。制限速度も決まってはいるが、警察の取り締まりは緩く、街はまるでサーキットでの自動車レースのようである。スピードを落とさせるためにハイウェイ以外は所々にバンプをもうけている。

人口に対する交通事故死亡率は世界一で大きな社会問題に発展している。政府も交通安全を啓発しているが一行に効果が現れない。

3. 最後に

G20の中にも入っている新興国であり、この世界的不況の中でもオイルマネーを使い日々発展を遂げている。隣国UAEでは、リーマンショック以降殆どの建設事業がストップしているが、サウジアラビアは未だに建設ラッシュである。近代化の波が押し寄せているが人々の生活は昔からの古い生活習慣が残っており、このギャップをどう埋めていくかも問題である。

いずれにせよ石油というラインで繋がっている日本は技術援助を続け、今後も友好な関係を続けていかなければならない。